

1992-93年度国際ロータリーのテーマ



まことの幸福は人助けから



Real Happiness is Helping Others

- 国際ロータリー会長 クリフ・ダクターマン ●第2560地区ガバナー 栗山 清
- 会長——内山辰策 ●副会長——上木六治
- 幹事——榎本 勝 ●副幹事——五十嵐総一
- SAA——渋谷正一 ●副SAA——松谷昊吉 ●例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 35-3477
FAX 32-7095

出席者会員数

会員 74名中 55名

先々週出席率

94.44% (前年同期 87.14%)

今日のお花

レナンキューラス

ヴィジター

三条南より 坂本洋司さん、馬場信彦さん、西巻克郎さん
三条北より 山口龍二さん、外山晴一さん、佐藤啓策さん

ゲ ス ト

BSN報道局 放送部 高坂元己殿

先週のメイクアップ

- 3/4 見附へ 金沢興宗さん
- 3/4 燕へ 加藤征男さん、渡辺勝利さん、渡辺喜彦さん
- 3/8 三条南へ 斎藤弘文さん、藤田紘一さん、五十嵐普三さん、石橋育於さん
- 3/9 三条北へ 榎本 勝さん、阿部武美さん、西山徳厚さん、関本哲秀さん、
岩井数央さん、小越憲泰さん

会長挨拶

内山(辰)会長

最近の新聞をみていますと、所得税法違反という事で元副総理の金丸さんが逮捕されました。割引金融債ワリシが28億あったという事ですが、けさの新聞をみますと、60億に増えていました。ここ掘れワンワンという訳でもないですがあと2~3日すれば100億位になるのではないかと思っています。考えてみますと政治家でなく政治屋となると職業として、仕事を始めるにしても皆さんが出して頂けるので資本金なしに出来る商売です。政治資金規制法となりますと決った額面は申告しますけどそうでない金については止むを得ず裏金として最高の政治優遇を受け無税の現金収入を得るのは、政治屋ではないでしょうか。我々、中小企業はバブルがはじけた影響を受け、苦しんでいる訳ですが、やっぱり、商売を志すには「政治屋」になった方がいいのではと考えます。

1つだけお願いしたいのは中国のポリオの協力要請がW・H・Oを通じて来ております。会員の皆様一名につき千円の協力をお願いします。

幹事報告

榎本幹事

◎細刈ガバナーノミニ事務所より 地区役員、委員依頼状がとどいております。

○藤田説量さん—地区ガバナー指名委員
—地区諮問委員

○吉井俊介さん—財団増進、財団学友、財団情報委員

◎前橋西RCより 1993~94年度地区協議会のご案内がとどいております。

と き 5月15日(土) 11:30~15:00 (ロータリー財団セミナー)

と ころ マーキュリーホテル新館2F鶴の間(新前橋)

義務出席者 次年度 地区ロータリー財団委員

次年度 会長、幹事、ロータリー財団委員長

と き 5月15日(土) 第1日目 15:30~17:50 (会長、幹事)

と ころ マーキュリーホテル新館2F鶴の間(新前橋)

義務出席者 次年度地区役員、委員

次年度 会長、幹事

と き 5月16日(日) 本会議分科会11:00~15:20 (第二日目)

と ころ 群馬県民会館

義務出席者 次年度地区役員委員

会長、幹事、クラブ奉仕(A)クラブ奉仕(B)

職業奉仕委員長、社会奉仕委員長、国際奉仕委員長

青少年奉仕委員長、ローターアクト委員長

ロータリー財団委員長、米山奨学委員長 11名

ニコニコBOX ¥10,000

3月10日分

- 渡辺(宏)さん 高坂さんスピーチご苦労様です。
- 佐野さん 3/7(日)に外山さん、中村さん3名で舞子高原へスキーに行ってきた。心配した天候にも恵まれ楽しいスキーでした。
- 藤田(紘)さん 途中退席させていただきます。
- 加藤さん 5月12日ゴルフ同好会のゴルフ大会を出雲崎コースで開催します。当日は、親睦委員会の寺泊ぐるめ会の懇親会で表彰式を予定しています。
- 渡辺(喜)さん 久しぶりのホームクラブ出席です。春らしくなりましたので。
- 川口さん 今日のゲストスピーカーと言うことでBSNの高坂君を紹介いたします。どうぞよろしく。
- 石橋さん 先月25、26、27、28日と菊池会員の浄圓寺住職任命式に京都東本願寺にお伴として行って参りました。無事研修も終り住職を拝命されました。おめでとう御座居ます。がんばって下さい。
- 佐藤さん BSNの高坂さんようこそ。
- 内山(辰)さん 今日健康で例会に出席することができました。ロータリーの社会奉仕活動に協力してボックスへ。

ロータリー財団ボックス ¥5,000

3月10日分

- 渡辺(喜)さん 御陰様で娘が3/1無事高校を卒業させていただきました。
- 中村さん 長女、今年小学校に入学します。
- 池田(千)さん 長男が一中に入学します。

卓話 「本番1分前」

BSN新潟放送報道局 高坂元己殿
こんにちは、BSNの高坂というよりは、東裏館1丁目岩田眼科の前の高坂と言った方がお判りになるかもしれません。私は鍛冶屋の出でして、高校を卒業して一旦家の仕事をしていたんですが、当時は、第2次オイルショック以降の構造不況で仕事がない。そこで、家業を継ぐことを諦め、大学へ進みました。本日は、うちの三条支局長から、「お昼をご馳走するから来ないか」と誘われまして乗り込んで参りました。私はこ



のお昼のご馳走という文句にはどうも弱くて、実は、私の人生を変える大きなキーワードとなったんですね。と言いますのは、BSNの入社試験の時、面接官（現社長）から「適当な人材がいればアナウンサーとして採用したい。君もカメラテストを受けてみないかね？お昼をご馳走するから！」と言われたんですね。私はラジオのディレクターになりたくて試験を受けに来たので、その気はありませんと断ると、「せっかく放送局に来たんだから、スタジオを見学するつもりでどうかね？」と再三迫るので、「これ以上難色を示すと、心証を悪くし、落とされる」と錯覚、カメラテストを受け、とうとうアナウンサーになってしまった次第です。ちなみに、その時のお昼のご馳走とは、会社の隣りにあるレストランの幕の内弁当でした。入社以来、ラジオのパーソナリティーとして、喋っていましたが、2年前の人事異動で、テレビに露出、現在は夕方6時30分からの「BSNニュースワイド」で、慣れない仕事を続けています。

今日はどんなお話をしようかなあ、としばらく悩んでおりました。私にとりましては、人生の先輩にあたる皆様を前に偉そうな話ができないし、かと言って芸人じゃないもんですから漫談をするわけにもいきません。少し固い話になるかもしれませんが、ご容赦ください。

最近この放送業界を取り巻く話題として注目されたのが、いわゆる「やらせ」問題です。今日はNHKの方はいらっしゃいませんよね？……。NHKが昨年秋に放送したドキュメンタリー「奥ヒマラヤ禁断の王国ムスタン」の内容に、一部やらせがありました。人為的に石や砂を蹴落として、自然現象に見せたり、高山病にかかり、一旦は回復したスタッフに酸素ボンベを吸入させ、初めて高山病にかかった様に偽って放送していました。「NHKおまえもか！」視聴者は怒りました。明らかに越えてはならない一線から飛び出してしまった訳です。昨年来民放のやらせが相次いだため、郵政省は、放送免許の更新時の査定にやらせを見ると決めました。つまり、あんまりやらせのひどい局には、放送免許を与えないぞと警告した矢先の出来事でした。

そもそも「やらせ」とはどういう意味なのか？少し前の広辞苑には載っていません。そこで、最近出ました三省堂大辞林を開きましたら、ありました。「遣らせ」～事前にしめしあわせて、なれあいでも事を行わせること。用例として「テレビ局のやらせ」とまで書いてあります。やれやれ、テレビ局のイメージも悪くなったもんだなあ、いささかがっかりしたんですが、一言で、やらせと言っても実体は様々で、且つ、どこまで許されるものかという線引きは、かなり曖昧なもののようにも思われます。例えばこんなシーンをよく目にします。あるリポーターが評判のラーメン店を捜しています。「〇〇1丁目〇〇番地、確かこの辺にあるはずなんだがなあ、おや向こうの方からいい匂いがしてきたぞ」と言うと、カメラはその方向を写しリポーターのすぐ隣にはそのお店が……。この場合、当然最初から場所は判っていて、単なる演出として知らない振りをしている訳です。ニュース番

組でも似たような事があります。ある贈呈式でのシーン、贈る側が目録を差し出す、受け取る側は手を伸ばし、両者ともその態勢を維持する。その間に、カメラは角度を変え、それぞれの表情を写る。選挙特番ではこんな事もあります。注目される候補の事務所には、各局から中継車を出し、バンザイの第一声を確実に放送しようと必死になります。ところが、スタジオの進行やコマーシャルの時間などによってタイミング悪く、バンザイの瞬間を逃してしまふことがあります。この場合、改めてバンザイをお願いすることになります。事この様に、演出上の工夫というものが、テレビの画づくりにはあります。またそれなしではテレビは成り立たないということを正直に申し上げなければなりません。では、今回のNHKスペシャルの問題シーンは、どういう形で伝えればよかったのか？高山病のシーン、石や砂が崩れ落ちてくるシーンについては、ことわり書きを入れて、「これは実際に起こった事を再現しました」と扱うしかなかったのではないのでしょうか？ドキュメンタリー番組を制作していく中で、迫力ある、衝撃的なものを追求する余りの勇み足とすれば、取り返しのつかない代償を負わされたものです。同じジャーナリズムの道を歩む者として、今回の事件は改めて身の引き締まる思いをさせられました。

次に私が今担当している番組、BSNニュースワイドについて、少し宣伝をさせていただきます。ニュースで取りあげる項目については、10数人いる報道記者がそれぞれ夜討朝掛、県内を飛び回っています。そして夕方になりますと本社に戻って来て、カメラマンと一緒に編集に入ります。私も編集室に顔を出し、取材にあたった各記者とデスク、この人は新聞で言えば編集長ですが、こうしたスタッフと共に、ニュースとしての取りあげ方、その客観性、人々の訴え、そして我々の主張など、視聴の皆さんにどのようにアプローチしていくかディスカッションします。そうやって一つ一つ議論を重ねながら作りあげていったニュースを、6時30分からまとめてお伝えしている訳です。しかし、そうやって手をかけ、時間をかけこしらえた一本一本のビデオテープも、時としてお蔵入りになってしまうこともあります。大きな事件、事故が放送直前に発生した時です。去年の春、新潟市郊外の郵便局に強盗が押し入ったという事件がありました。夕方のニュースで現場から中継出来たのは、うちのBSNニュースワイドだけでした。何故そういう事になったのかお話ししよう。

事件、事故の知らせというのは、県庁の警察庁舎の中にあります司法記者クラブに第一報が届きます。ここは、放送、新聞など各社の記者が常時詰めている所です。ところが、その時の警察発表は、事件発生後かなり遅れたんですね。実はBSNの報道部に一報が寄せられたのは、新潟日報からだったんです。新潟日報社とは、ニュース原稿を送ってもらうという契約を結んでいまして、主にラジオの定時ニュースで使用しています。日報がどうして強盗事件発生をキャッチしたのかは不明ですが、夕方6時近くになってBSNへ原稿を送って来たんですね。これは一大事、ということになりまして、すぐに中継班を揃え、

6時過ぎに会社を出発しました。放送まで30分を切っています事件現場までは車で40分位かかるところです。いつ中継を入れられるか判らないが、とにかく3分位は伝えようということになりまして、本番の6時半を迎えました。第一項目は当然事件の一報です。「後程、現場からお伝えします。」と言って次のニュースに進みました。ところが、時間はどんどん過ぎて行くというのに、現場の画が入ってない、で番組があと5分で終るという頃になってやっとつながりました。現場には乗り込んだ記者が、捜査中の警察官から状況を手早く取材し、中継にこぎつけたといったものでした。すでに日も落ちて薄暗いなかに、立ち入り禁止のロープが張られ、カメラのライトが、捜査員の物々しい姿をとらえている、臨場感ある中継でした。番組が終って心の中でつぶやきました。「日報さんありがとう！」と。

3月17日例会 卓話 細井増雄会員

3月24日例会 職場例会 PM12:30~ 於 中小企業大学校 三条校

3月31日例会 卓話 三条税務署 署長 大矢俊雄殿
